

自分の思いや考えを分かりやすく伝え合うことができる児童の育成

－「話すこと・聞くこと」における支援ツールの活用を通して－

大崎市立古川第一小学校 伊藤 弘章

1 主題設定の理由

本校第3学年の児童は、これまで「話すこと・聞くこと」の領域で、質問しながら話し合う活動や、メモを取りながら話を聞く活動を通して、互いの意見の共通点や相違点に着目しながら、話し手の意図を捉え、自分の考えを持つ力を培ってきた。しかし、話し合い活動においては、一部の児童に発言が偏り、他の児童からは「何を話せば良いか分からなかった」といった戸惑いの声が聞かれた。意識調査（5月に実施）では、自分の考えに理由を付けて話したり、順序立てて伝えたりすることに不安を感じていることが分かった。

この結果から、児童は話す意欲はあるものの、話す際の構成や理由の述べ方に課題がある。したがって、自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝える力が十分に育っていないのではないかと考えた。このような実態を踏まえ、児童が話す内容を整理したり、構成を考えたりする手掛かりとして、支援ツールを活用し、考えを整理して言語化する支援を行うことで、児童の伝え合う力の向上が期待される。

以上のことから、児童同士が自分の思いや考えを分かりやすく伝え合う力を育成するために、「話すこと・聞くこと」における支援ツールの活用を通じた指導の工夫が必要であると考え、本研究主題を設定した。

2 研究の目的と方法

(1) 研究の目的

本研究の目的は、国語科「話すこと・聞くこと」において、支援ツールの活用を通して、自分の思いや考えを分かりやすく伝え合うことができる児童の育成である。

国語科「話すこと・聞くこと」の学習における「伝え合う」とは、自分の考えを述べるだけでなく、相手の発言を受け止めて応答する双方向的なやり取りを指す。「支援ツール」とは、話し合いの流れや発言例を示すカードなどを指し、児童が安心して発言したり、意見に注目して聞いたりすることを目的に用いる。

(2) 研究の方法

本研究では、「話すこと・聞くこと」における児童の伝え合う力を高めることを目指し、支援ツールと表現活動の工夫を手立てとして講じ、その有効性

を検証する。具体的には以下の検証方法を用いる。

- ① 支援ツールを活用し、児童が思考を整理して分かりやすく話したり、相手の発言を受け止めて応答したりする姿を観察・記録する。
- ② 単元内での学習計画表、支援ツールの記述を基に、児童の思考や表現の変容を捉える。
- ③ 事前と事後の意識調査を通して、児童の伝え合うことへの意欲や認識の変容を捉える。
- ④ 他教科や活動場面でも学習内容が活かされているかを見取るために、総合的な学習の時間の発表活動や学級活動における話し合いの場面を観察する。

3 授業実践 I の取組

単元名：「グループの合い言葉を決めよう」

（東京書籍 新しい国語三）

(1) 手立てについて

① 支援ツールを活用した指導の工夫

A 話し合いの流れを見通す

「進め方カード」(図1)や「話し合いのコツカード」(図2)を用い、話し合いの流れ(目的→発言→整理→決定)を明確にし、司会者や参加者の役割を意識して活動できるようにする。

イ 話し方のヒントや言葉の型を示す

発言に不安を感じている児童に対しては、話し方のヒントや言葉の型を示し、安心して話せるように支援する。

④決まったことをたしかなめる これ話しても終わりますか？	③意見について話し合う 話し合ったらどうしますか？ 今日は、()の意見を話しました。(合意)は、()の意見を話しました。	②意見を話し合う ふんがわかってきた言葉は、()です。 ふんがわかってきた言葉は、()です。 ふんがわかってきた言葉は、()です。	①話し合いの目的と進め方 話し合いの目的は、()です。 話し合いの進め方は、()です。 話し合いの進め方は、()です。	例 司会者：今日の話し合いの目的は、()です。話し合いの進め方は、()です。話し合いの進め方は、()です。	進め方カード 名前 三年組 番号
---------------------------------	--	---	---	---	---------------------

図1 支援ツール 進め方カード (授業実践 I)

話し合いの目的 話し合いの目的は、()です。	話し合いの進め方 話し合いの進め方は、()です。	話し合いの進め方 話し合いの進め方は、()です。	話し合いの進め方 話し合いの進め方は、()です。	話し合いの進め方 話し合いの進め方は、()です。	話し合いのコツカード 名前 三年組 番号
----------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	-------------------------

図2 支援ツール 話し合いのコツカード (授業実践 I)

② 自信を持って伝え合う表現活動の工夫

ア 対話を進める雰囲気をつくる

児童が安心して学習に臨めるよう、学習形態や場の設定を工夫する。話し合いでは、ペア・グループ・全体など段階的に話す場面を設定し、互いの考えを尊重しながら進める雰囲気をつくる。

イ 他教科と関連付ける

総合的な学習の時間や学級活動での話し合いなど他教科と関連付け、児童が自分の思いや考えを伝え合う場面を広げる。

(2) 授業実践Ⅰの成果と課題(○:成果 ●:課題)

① 支援ツールを活用した指導の工夫

ア 話し合いの流れを見通す

○ 「進め方カード」により、児童は話し合いの流れ(目的→発言→整理→決定)を理解し、司会者は安心して進行を行うことができた。グループで「進め方カード」を見ながら、司会者が「次は『意見を出し合う』に進みます」と話し合いの段階を確認しながら進行することで、グループの友達も同じ見通しを持って活動する姿が見られた。

○ 「進め方カード」で話し合いの流れが視覚的に提示されていたことで、児童は今、自分たちが話し合いのどの段階にいるのかを意識して活動することができた。

● 学力の下位層の児童にとっては、カードの文章量や言い回しが多く、理解が難しい様子が見られた。カードの説明文だけでは、各場面で自分が「何を」「どう」すれば良いのかまでイメージしにくかった。

イ 話し方のヒントや言葉の型を示す

○ 「話し合いのコツカード」で話型が示されたことで、発言に不安を持っていた児童も、話の組み立て方をイメージすることができ、自信を持って発言するようになった。

● 話し合い活動では、自分の意見を一方的に話すことが課題となり、双方向的なやり取りが十分に広がらなかった。

② 自信を持って伝え合う表現活動の工夫

ア 対話を進める雰囲気をつくる

○ 話し合いはみんなで進めるものという意識が育ち、大事なことを落とさずに相手の話を聞くことができる児童の姿が見られた。

● 応答や問い返しについては、今後、更に育成していく必要がある。

● 司会役が戸惑った結果、話し合いが停滞したグループもあった。

イ 他教科と関連付ける

○ 本単元を終えた後、「総合の時間にも使えそう」など、他教科でも意見を伝え合いたいという前向きな声が聞かれ、国語の学びを他教科にも生かそうとする姿勢が見られた。

● すべての児童に、より使いやすいツールにするために図や色分けなど視覚的な工夫も有効であると考えられる。

4 授業実践Ⅱの取組

単元名:「話したいな すきな時間」

(東京書籍 新しい国語三)

(1) 手立てについて

① 支援ツールを活用した指導の工夫

ア メモカードの活用

好きな時間とその理由、具体的な事例を整理できるようにし、友達とカードを見せ合うことで「どの理由が一番伝わりやすいか」「もっと詳しく聞きたいところはどこか」を確認する場を作る。理由と事例の関係を意識して話す準備ができるようにする。

イ スピーチカードの活用

スピーチカード(図3)を「始め」「中」「終わり」に区切って構成させることで、話の流れを視覚的に整理できるようにする。練習段階ではカードを手を持ちながらも、聞き手を意識して話せるようにする。教師は「どのような順番で話すか」「どの部分を強調したいか」を問うことで、児童がスピーチの構成を意識して話す力を高められるようにする。

ウ 言葉カードの活用

言葉カードを提示し、気持ちを表す言葉(「うれしい」「どきどきした」「ほっとした」など)や、理由を言うときに使う言葉(「～から」「なぜなら～から」など)を選んで使わせ、伝えたい思いに合う言葉を吟味する。発表後には聞き手の感想を受けて、言い換えや付け足しを行わせ、自分の感情や考えを適切な言葉で表現できるようにする。

② 自信を持って伝え合う表現活動の工夫

ア 段階的な発表の設定

まず個人で練習を行い、次にペア、最後に全体発表へと進めることで、児童が安心して自分の考えを伝えられるようにする。身近な友達の前で成功体験を積むことで自信が増し、聞き手の人数が増えても安心して話すことにつながると考える。

イ アドバイスカードの活用

アドバイスカード(図4)に「話の中心が分かったら◎」などといったチェック項目を設け、聞き手が話し手の良い点を具体的に伝えられるようにする。

ウ 教師の働き掛け

発表では原稿どおりでなくても自分の言葉で伝えるよさを教師が繰り返し伝える。また、発表後の全体共有の時間に、他の児童の感想を取り上げ、クラス全体で価値付ける発言を意図的に行う。例えば、「自分の体験したことを話していたから分か

学習で行った「メモを取りながら話を聞く」指導が児童の中で学習方法として定着し、自ら必要と判断して活用したことの表れであると考えられる。

- 導入で校長や担任の動画を活用したことで、児童の関心が高まり、学習への意欲が喚起された。相手に伝わる話し方の具体像を共有することができた。

5 研究のまとめ

(1) 意識調査の結果から

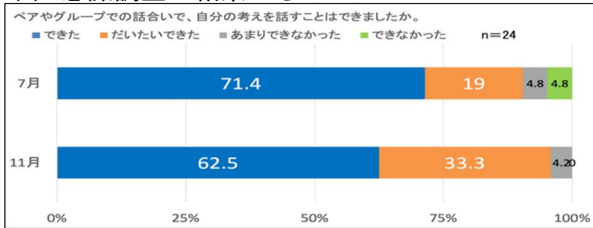


図5 意識調査の結果

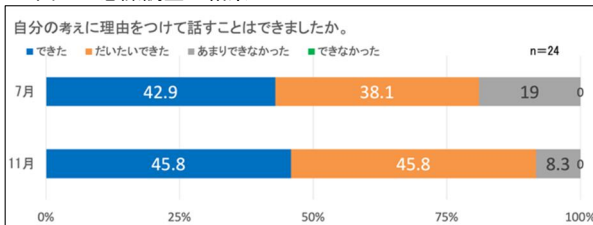


図6 意識調査の結果

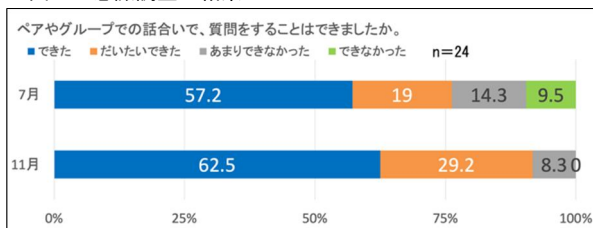


図7 意識調査の結果

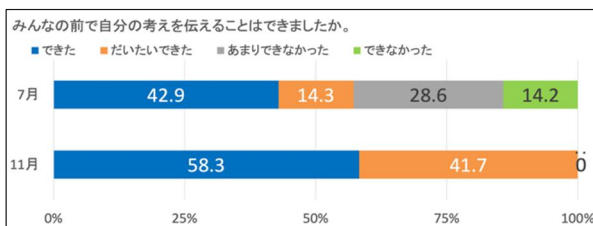


図8 意識調査の結果

① 支援ツールを活用した指導の工夫

意識調査では、「ペアやグループでの話し合いで、自分の考えを話すことができましたか」（図5）という問いに対し、「できた／だいたいできた」と答えた児童は95.8%（7月比+5.4%）と増加した。「自分の考えに理由を付けて話すことができましたか」（図6）という問いに対し、「できた／だいたいできた」と答えた児童は91.6%（7月比+10.6%）と増加した。メモカードを用いて「理由」や「具体例」を書き分けたり、言葉カードで「～から」「なぜなら～」といった表現を使ったりする活動が、理由を書くことを促したと考えられる。また、「ペア

やグループでの話し合いで、質問をすることはできましたか」（図7）という問いに対して、「できた／だいたいできた」と答えた児童は91.7%（7月比+15.5%）と増加した。これは、スピーチカードを用いて話の流れを整理できるようになり、聞き手が話の要点を捉えやすくなったためである。話の構成が見通しやすくなったことで、児童は自分の意見を添えて話したり、相手に質問したりしやすくなったと考えられる。

② 自信を持って伝え合う表現活動の工夫

「みんなの前で自分の考えを伝えることができましたか」（図8）という問いに対して、「できた／だいたいできた」と答えた児童が100%（7月比+42.8%）と増え、全体発表に対する自信が高まった。ペア→グループ→全体と各発表場面で段階的に成功体験を積み重ねたことで、児童は安心して自分の考えを伝えることができるようになった。

(2) 研究の成果と課題

研究の成果

授業実践Ⅰ・Ⅱおよび意識調査の結果から、支援ツールの活用と表現活動の工夫によって、児童の伝え合う力の成長が見られた。メモカード・スピーチカード・言葉カードは、児童が自分の考えを整理し、理由を添えて話す手掛かりとなり、授業場面でも理由や具体例に触れて話す姿が増加した。また、相手の発表に質問したり、良いところを伝えたりする姿も多く見られ、聞き手として話し合いに関わる意識も高まった。さらに、段階的な発表構成やアドバイスカードの活用、教師の肯定的な価値付けによって、全体の前で分かりやすく伝えようとする児童が増加し、「自分の言葉で伝えたい」という意欲が育まれた点も本研究における重要な成果である。

研究の課題

児童の話し方や学び方には違いがあり、支援ツールの活用方法にも違いが見られた点は課題として残った。今後は、こうした違いに応じて支援が行えるよう、支援ツールの使い方を個別に調整していく必要がある。それは自分に合った方法で考えを整理し、自分の言葉で話せるようにするためである。また、発表と振り返りを結び付けた学習が十分に定着していない児童もいたため、「どこがどのように伝わったのか」「次はどうすれば良いか」を自ら確かめられるよう、振り返り活動の充実を図りたい。さらに、伝え合う力が国語だけでなく他教科や学校生活にも生かされるよう、言語活動とつながる授業づくりを進め、児童が互い良さを認め合いながら学び合う姿が日常的に生まれるよう、学校全体で取組を共有し、研究を深めていきたい。

【図表の許諾について】

図(3)及び図(4)は、授業実践の中で児童が記入したワークシートの一部である。研究の目的にのみ使用することとし、児童及び児童の保護者、所属校の校長から使用許諾を得た。